

卒業生によるボランティア活動グループ「わ」会報

情報ギャラリー

第19号

情報ギャラリー第19号

発行日 2002年7月25日
 編集 グループ「わ」広報部
 発行者 久保 雅一
 発行元 神戸市シルバーカレッジ
 社会還元センターグループ「わ」
 TEL(078)743-8101
 FAX(078)743-8103

正副委員長抱負を語る

分かるグループに

委員長 (国際5) 久保 雅一

2002年5月第4回定期総会で新役員として委員長に就任しました。



私は、神戸市シルバーカレッジ在校生のボランティアセンターに関わっていた頃よりグループ「わ」の活動は在校生の活動の延長線上にあって欲しいと念じていました。

社会還元センターとして、本年度の基本年次方針をお伝えします。

1. 分かりやすいグループ「わ」
 - 1) 会員が活動しやすい仕組みとする。
 - 2) 在校生に卒業後の居場所としてのグループ「わ」を紹介する。
 - 3) 市行政区、関連団体へグループ「わ」の行動範囲を拡大する。
2. 自立するグループ「わ」
 - 1) NPO 法人の取得。
 - 2) 財務内容の改善を図ると共に活動経費負担をボランティア活動依頼先に求めるように努める。
 - 3) 助成金申請の強力推進。

神戸市よりグループ「わ」が高齢者情報センターとしての機能を持つように要請を受け、具体的内容の打ち合わせに入っています。

会員一人一人のお力をグループ「わ」の行動に実現出来るように、また生き甲斐ある社会参加者になっていただくように切望します。

進化へ挑戦

副委員長 (生環6) 赤司 松美

就任して早1ヶ月以上が過ぎ、その重責を痛感させられています。



まずは所属する環境部会、垂水地区会で会員の1人としての積極的な活動に取り組めます。それらの活動を通じて「わ」のあり方を組織面、財政面、活動面より考え、内容的にさらに充実した活力ある社会還元団体としての新たな発展、進化へチャレンジしてみようと決意を新たにしています。

全体活動の勉強を

副委員長 (国際6) 黒田 宏

カレッジの建学精神に則り、卒業後も「英語点字」、「ロビーの会(主にPHD



協会支援)」、「男声合唱」等に参加し、それぞれのボランティア活動に専念することを考えていましたが、このたび計らずも副代表と言う重責を担うことになり、今後はグループ「わ」全体の活動について勉強し、諸先輩のご指導とご鞭撻を得て微力ながら取り組んでいきたいと思ひます。

どうぞ宜しくお願い致します。



活動費規定効力を一時停止

運営委員等の会務について

長引く不況で当グループの財政収入が減少しているのは総会などでもお知らせしていますが、そのような状況に対応するため、企画会議、運営会議など会務への出席について従来活動参加費に準じて支給していた1人1日500円は本年度から支給しないことになりました。会務への活動参加費はグループ「わ」活動費、旅費交通費、研修費等に関する規定(H13・8・31~実施)の3. 項で定められていますが、先般開かれた6月度運営委員会で同項の効力を当分の間停止することが決議されました。その他の活動費支給もこの際全部廃止することの可否も検討されましたが、長い間既定事実化しており、部会や小グループごとにいろいろ事情があることから、支給を続けたまま引き続き検討を重ねることとしています。

NPOへの途(みち)

特定非営利活動(NPO)法人資格の取得は本年度の基本方針の一つですが、実現に向けNPO法人検討委員会を結成しております。メンバーは中嶋 洋吉(生環3)、則武 勲(生環4)、久保 雅一(国際5)、黒田 宏(国際6)、赤司 松美(生環6)の5名です。

6月25日(火)、黒田、赤司両委員が兵庫県県民生活部企画調整局に赴き、久之池正樹主査から申請の指導を受けました。

7月2日(火)に第1回検討委員会を開き、H15年3月末承認、同年4月初めに法務局届け出の目標を決め、この11月初めに申請書を提出することにし、現在必要資料を作成中です。(NPO検討委 赤司 松美)

本 部

中国 李深先生ご来訪

6月18日、事務局山田さんが北京からこられた中華人民共和国衛生部中国老年保険協会の李深先生（会長、外科主任医師、教授）一行5人をシルバーカレッジの施設を見学して頂いた後、グループ“わ”に案内してこられました。久保代表と共に挨拶を交わし、グループ“わ”の説明（シルバーカレッジの卒業生で、神戸市全域において3年間の学習を生かしてボランティア活動を行うグループ）をしました。またシルバーカレッジには福祉文化、国際交流・協力、生活環境、総合芸術の4コースがあり、総合芸術コースはさらに美術工芸、音楽文化、食文化、園芸の4専科に分かれていて、それぞれで3年間の学園生活を送ることを話しました。さらに天津・上海・武漢の老人大学において交流を行ったこ

とを話しましたところ「これから私たちもシルバーカレッジと交流を深めましょう」と応えられました。

後で聞くとところによるとこのたび李深会長は日本における中国の鍼灸術の普及の調査のため来神され、さらに福祉関係にも造詣があり、しあわせの村のことを耳にされ、村内の福祉施設、施設内設備、福祉活動の実態を見に来村され、そこでシルバーカレッジの存在を知り、見学に来訪されたそうです。

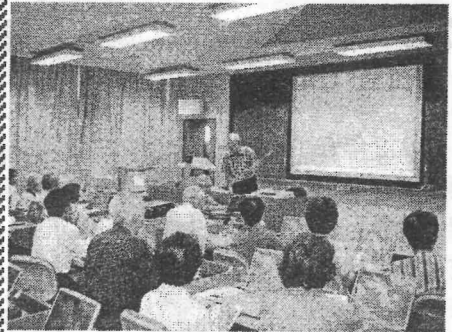
なお李深会長は中国の大都市に存在する老人大学を掌握される地位におられる方で、老人大学の校長一行とシルバーカレッジを訪問したいと話しておられました。

先生に“わ”の会報「情報ぎゅらりー」の説明をしましたところ、次回発行の会報を是非にと懇望されましたので、7月号をお送りする約束をし、掲載のための写真を撮りました。（事務局 大坪 英二）

パソコン講習会大人気

平成14年度のパソコン講習会は、企画・運営がカレッジ事務局からグループ“わ”に委託されました。第1回目は6月19日より入門コースが行われ、“わ”会員10名、在校生20名が午後3時から4時30分まで8日間愉しく学びました。

第2回目は「暑中見舞ハガキ」をテーマにした応用コースで、7月8



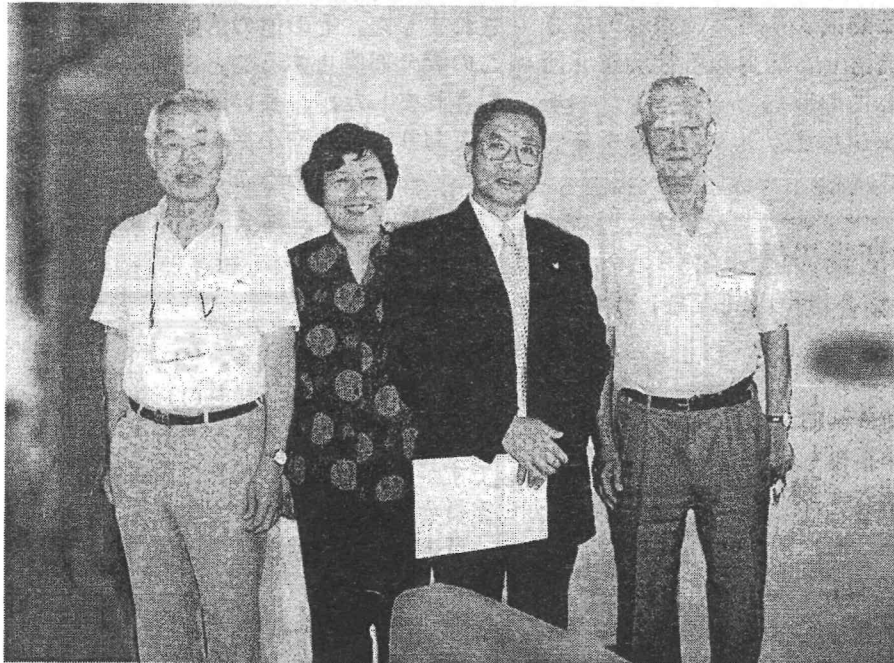
第1回入門コース

日から11日まで、4日間延べ6時間の講習が行われました。

第3回のテーマは「デジカメ撮影からプリントまで」、第4回は「年賀ハガキの作成」で、両コースとも応募受付は5月の会報（18号）でお知らせ済みで、すでに抽選も終わっています。

第1回の入門コースで受講希望者が定員の2倍もありました。抽選漏れの方々にはご希望なら受講して頂けるよう、12月にもう一度入門コースを開く予定です。ご希望の方はグループ“わ”事務局（743-8101）までお問合せください。

なおカレッジの夏休み期間中に一般市民向けの講座も開くことになり、7月1日発行の広報こうべで募集しました。入門コース、応用コース（デジカメ撮影からプリントまで）とも即日定員（30名）一杯になりました。（事務局 大坪 英二）



久保委員長 通訳の方 李深先生 筆者

元気アップ ニュー スポーツ大会

2002・11・18（月）10:00～15:00

生きがい部会

しあわせの村球技場

マウンテンボール

お楽しみ会 シルバーカレッジ・ホール

フロッカー

グラウンドゴルフ

ペタンク

シャッフルボール

公式わなげ

平成14年度役員

委員長	久保 雅一	(国5)
副委員長	赤司 松美	(生6)
副委員長	黒田 宏	(国6)
事務局長	大坪 英二	(福4)
事務局次長	堀内 昭	(食6)
広報部長	朝日 照夫	(国6)
福祉部会長	柳内 隆治	(福4)
国際部会長	吉岡 乃夫子	(国3)
環境部会長	田波 久紀夫	(園5)
文化部会長	芝野 公男	(国6)
いきがい部会長	則武 勲	(生4)
地区委員長		
東灘区	藤井 潤子	(音5)
灘区	飯田 洋三	(福4)
中央区	杉野 好一	(生5)
兵庫区	山中 敏夫	(福3)
北区	淡路 忠義	(福5)
長田区	田中 彬夫	(国2)
須磨区	梅谷 正芳	(国2)
垂水区	赤坂 稔	(生4)
西区	山口 昌秀	(園4)

文化部会

からすの鳴き声が大受け

男声合唱団、養護学校へ

今回男声合唱団は、2期の門脇さんの紹介で6月14日(金)神戸養護学校での慰問演奏に出かけました。訪問はハンディを背負っている子供たちとの交流なので、初めてのことであり正直言ってどのような形で子供たちと接して行けば良いのか分からず、先生方と打合せを行いました。

第1部として「子供の1年」という1月から12月まで各月に当てはめた楽しい童謡・唱歌を歌いました。

第2部ではカデンツァを取り入れ、パートごとの音程とこれを同時に発声すればどうなるかなどの実技を披露し合唱の仕組みを楽しんでもらいました。

第3部では男声のメンバーが生徒

の中に入り、生徒たちが音楽の授業で習っている曲を2曲、一緒に手を叩きながら楽しく大きな声で歌いました。やはり音楽は人間のハーモニー作りに効果があります。最後に男声合唱曲として、「権兵衛が種まく」「源兵衛さんの赤ちゃん」など5曲を聞いて貰いました。特にこの2曲は最後にカラスの鳴き声と赤ちゃんのオギャーという鳴き声が入るので子供たちには大受けでした。

歌い終わってから子供たちとのQ&Aの時間があり、その中に「どうして男ばかりですか」という質問がありました。男声合唱は初めてのようで、素直で面白い質問だと思いました。

再度要請があれば、次は混声合唱と男声合唱と一緒に参加すればきっと素晴らしいプログラムができることでしょう。そしてグループ“わ”の活動を知って頂けるものと思います。(文化部会 黒田 宏)

北アルプス展望の旅 募集のご案内

日時：9月30(月)～10月1日(火)

集合：シルバーカレッジ&湊川神社

宿泊：大町温泉

費用：後日確定(30,000円の予定)

募集：40名～45名(先着順)

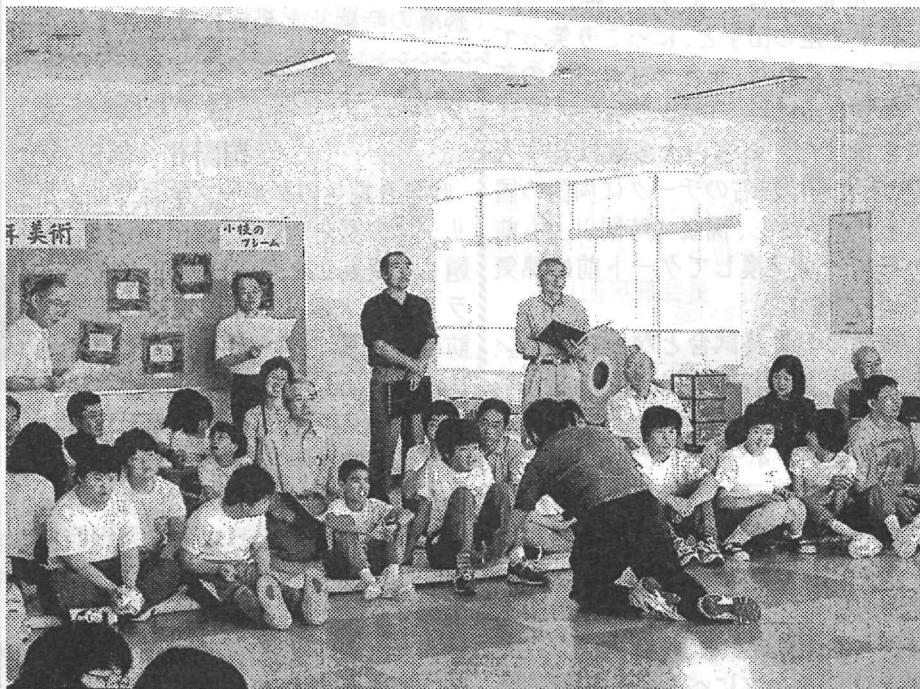
観光：黒四ダム・安曇野など

詳細については8月1日頃

お知らせします。

お問い合わせは大坪(709-2484)まで

四期生旅行同好会



ホールに集まった子供たちと先生方

有馬湯殿館ガイド

ボランティア募集！！

平成11年に神戸市観光課より有馬温泉念仏寺に隣接の湯殿館(太閤秀吉が作らせた蒸し風呂、岩風呂および縁の品々を展示の常設館)のガイドの依頼を受け、以来ガイドボランティアを継続して行っています

が、この11月、旧保養所に観光客のための休憩所および体験工房コーナーが新たにオープンされる運びになりました。

現在週3日(金・土・日)2人づつ湯殿館においてガイドボランティアを行っています。休憩所、体験工房の建物にも二人づつ必要となりますが、現在の人員のままでは無理

な状態ですので、ボランティアをして頂ける人を募集いたします。

交通費の補助として1000円支給、勤務時間は午前10時～午後4時までで、月2回ぐらい稼働のローテーションを組む予定です。

詳しくは事務局 大坪(電話743-8101)までお問合せください。

国際部会

ロシア語でこんにちは！ 誘導ボランティアとして

国際1 立谷 多美子

史上初の日韓共催FIFAワールドカップ64試合の内、神戸ウィングスタジアムでは6月5日、7日、17日の3試合が行なわれた。この3日間、私は誘導ボランティアとして、南ゲート前で案内プラカードを持って立った。遙々日本を訪れたサッカーファンにウエルカムの気持ちを込めて…。

事前に来神4ヶ国異文化セミナーに出席したり、12ヶ国挨拶集CDを聞いてその国の言葉の一端を覚えようと努力した。

初日のロシア対チュニジア戦の試合前、ロシア国旗を腰に巻いた色白で背の高いサポーターが私の前に立ち止まったので、すかさず

ズドラスツヴィチュェ ダプロバジャロヴィチヴコウベ
「こんにちは、ようこそ神戸へ」と右手を差し出すと、にっこり笑って握手してくれた。またチュニジアの若いカップルには、「ボンジュール」と声を掛けた。観客の大多数は日本人で、若者達は左右のチークに両国の国旗をペイントし、開場4時間以上も前からエール交換してゲート前は熱気に満ちていた。

神戸での最終試合となったセカンドラウンドは、ブラジル対ベルギー戦となった。南ゲート前は、カナリア軍団の熱狂的サポーターで埋まった。セクシーな踊り子の周りはカメラの放列が敷かれ、歩道は人の流れが止まり、スピーカーで誘導するのに苦労した。一方ベルギーのサポーターは少数ながら赤い鳥のデスマスクをかぶり、真赤なTシャツにベルギー国旗を肩から羽織って異彩を放っていた。彼らの周りは俄かサポーターの日本の若者達がこれまた真赤なTシャツを着て盛り上げていた。

キックオフの午後8時半には、熱気と興奮はスタジアム内に移り、ゲート前は遅れて駆け込む観客の姿が見られた。時折球場から聞こえてくる大歓声に、今のはどちらがゴールを決めたのだろうと、ボランティア仲間と顔を



「ほんとうに楽しかった」、筆者の立谷さん

見合せた。帰路の誘導は、延長戦になった場合夜遅くなることも予想されるので、神戸市消防団員に任された。

本番直前のリハーサル、キリンカップ国際Aマッチの試合終了後の観客誘導の時感じた恐怖は味あわずに済

んだ。

今、開催地ボランティアの任務を無事終えて一抹の寂しさを感じている。と同時に肌で感じた熱気と興奮は一生忘れられない思い出となった。

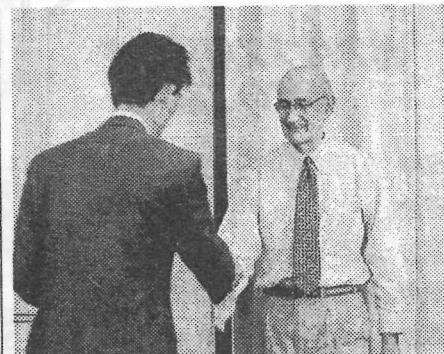
グループ学習が縁で国際交流

国際6 黒田 宏

昨年6期生のグループ学習で「アボリジニの歴史に見る文明の光と影」と題して発表したグループが、オーストラリアへアボリジニの現状を視察に訪問した際、お世話になった Mari Heazlewood さんという日系の方が、しあわせの村とシルバーカレッジに非常に興味を持ち、是非訪問したいという希望を持っていました。彼女はメルボルンで多くの日本人のお世話にも熱心で、特に長年オーストラリアで生活を営まれた高齢者の福祉活動を推進されています。不思議なもので彼等は不自由なく英語を話していたにも拘らず、年を重ねるごとに英語を忘れ日本語しか話せなくなっているとの由。

今回大阪ドームで開催されたライオンズ・クラブの世界大会に参加するため、ウィリアムズタウン(ビクトリア州メルボルン近郊)のクラブ会員12名と一緒に来日し我々と交流を持つことになりました。

7月4日(木)、カレッジからは在校



神田局長の謝辞の後握手する訪日団長C.ベイツさん

生と卒業生(グループ“わ”の国際部会員)いずれも16名づつが参加して、昼食を挟んで約6時間、Free Conversation、ゴルフ、村内の見学等を楽しみました。あまり聞き慣れない Cockney Englishだったせいでしょうか、もう少し聞き取れると思っていたのに発音に慣れるまで戸惑いました。

私は Dinner Party まで一緒にしましたが、団長の最後の挨拶で、我々が生き生きと英語を話すのを聞いて驚かれたようで、「我々も語学の勉強をする必要がある…」と会員に話していました。かなりハードな日程にもかかわらず全員我々との交流を心から楽しんでおられたのが印象的でした。

国際部会

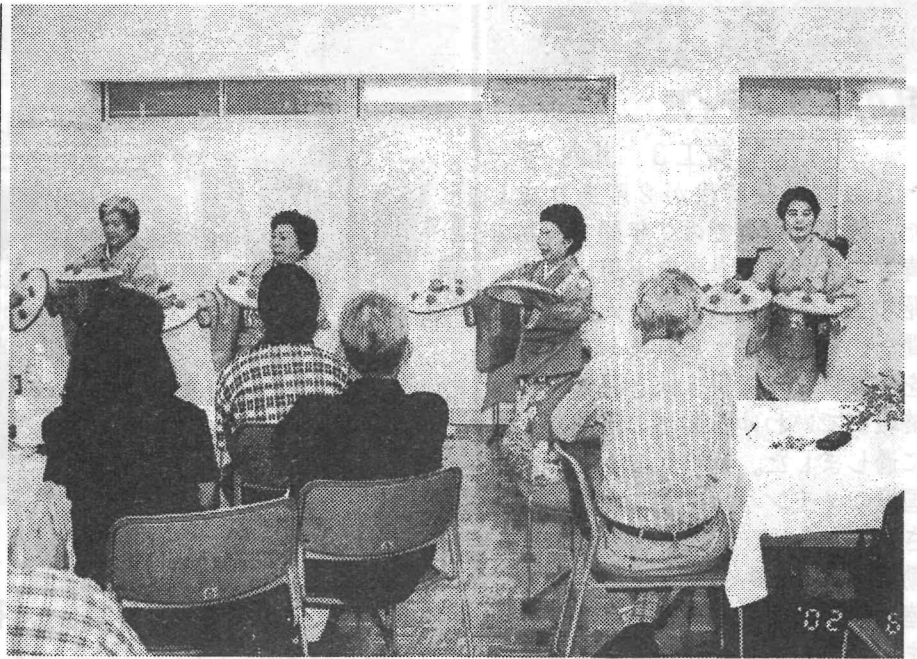
日頃練習の芸を披露

外国人留学生交流懇親会

国際部会が行っている神戸在住外国人留学生との交流懇親会、ことしは6月16日(日)午前11時～午後3時までの間、中央区吾妻通にあるコミスタこうべ(神戸市生涯学習センター)の301号室を借りて行われました。この交流会は主催の日本人側が外国人留学生を招待して交歓するもので、ことしは日本人の出席者(部会員)47名、招待者24名でした。出身国別の内訳は中国9名、台湾8名、フィリピン3名、インドネシア3名、スリランカ1名でした。

会場の設営やテーブル装飾なども部会員が手分けして行いました。会は2期の和田敬介さんの司会で始まりました。部会長として私が簡単な挨拶をしたあと、留学生の自己紹介と自国の紹介がありました。瞬く間にお昼時となり、みんなでお喋りを楽しみながらお弁当を頂きました。

午後はまず参加者の写真を撮りました。(下の写真)そのあとスリランカからの留学生から同国の状況などを話して頂きました。



それが終わると部会員による演技の時間になり、日頃の練習の成果を披露してもらいました。まず男声コーラスは黒田宏さんから15名が見事なハーモニーで8曲を歌いました。

次は中村吉宏さんと田中剛さんのマジックで、ときどき種が分かるのがご愛嬌で会場は沸きました。演技の後教えを乞いに楽屋まで来た留学生もいました。

3番目は新舞踊で、岡田京子さんら6名の方が牡丹獅子など3曲を揃いの衣装で大変上手に踊ってくださ

いました。演技者を間近で見られて喜んで頂きましたが、踊る方は狭い場所で申し訳なく思いました。

最後は十倉康夫さんのリードで全員「夕焼け小焼け」を歌い、吉川哲郎さんの締め括りの挨拶で交流会を終えました。

部員の皆さんの協力で明るく華やかな場になったことを感謝しています。次回はもっと留学生と交じり合った座り方をすれば更に親密度が上がるのではないかと思います。

(国際部会長 吉岡 乃夫子)



兵庫区会

私のボランティア

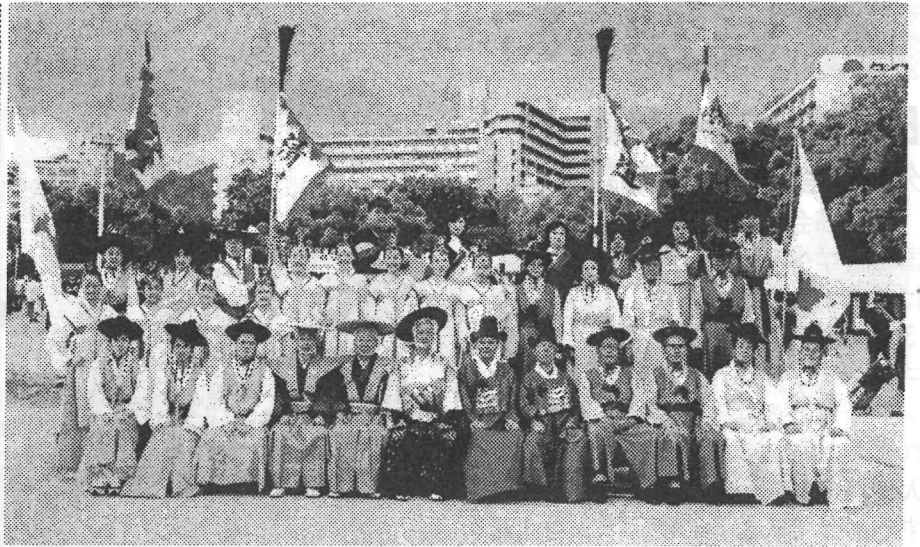
美工3 井内 宇一

私には現役時代が2度ありました。第1は軍隊での7年間で、私の青春のすべてであったと思います。昭和14年現役兵として入隊、3年間思いっきり鍛えられました。現役を満期になって引き続き召集され、終戦までいわゆる娑婆の風を知らずに過しました。初年兵のとき、ソ連国境のノモンハン事件に出動、召集されてからは一時大倉山の陣地にも勤務したこともあります。主として陸軍輸送船の海上護衛隊として終戦まで勤務しました。残念ながら私には青春を謳歌した思い出はありません。

何分高射砲隊は要地防空が任務で常に後方勤務で、陸軍とは言いながら敵と直接対戦したことはありません。輸送船では対潜監視が主な任務で航海中は緊張の連続でした。発射された魚雷を発見して難を逃れたことも何回かありますが、魚雷が命中して船が沈没して海に投げ出されたことも3度、幸いにして私は生き延びておりますが、船と運命をともした多くの戦友や戦場へ輸送中の多くの兵士を思うたびに戦争のむなしさを痛感しています。特に輸送船が遭難して沈没するときほとんどの船長が最後まで退船せず船橋に立ち尽くして自分の船と運命をともした姿は今も思い出すと感動に胸が締め付けられる思いです。そんなわけで私には何の手柄を立てたこともありませんが、その代わり略奪暴行などの悪いことも一切した覚えもありません。

第2の現役時代は復員後スポーツ用品店に勤め、その後独立した68歳までの充実した期間でした。スポーツ用品といってもその素材は繊維、皮、木材、金属など多種多様にわたり、小売店はその修理などを引き受けることが多く、そのころの色々な仕事は現在のボランティア活動に役立っているのかもしれませんが。

シルバーカレッジの3年間はうまいもんクラブと便利大工ボランティ



朝鮮通信使行列に参加した人々、湊川公園、5月18日

アグループに入り青春を取り戻したような楽しい期間でした。

卒業と同時に“わ”に入りパンジーの会には自動的に入会したのと思っていました。

その後ボランティア活動は担当者から依頼があるまま、木工グループ、親愛ホーム、自立センター、丸山学園、滝谷ホームのほかイベントにも参加させて頂いて楽しみながらボランティアを続けています。特に丸山学園は知的障害児の毎週一回の散歩介助ですが、言葉が判らないながらもことに純真な子たちでボランティアと言うよりこちらが楽しませてもらっているようなものです。また滝谷ホームの調理ボランティア（毎月3日間）は皆が美味しい美味しいと喜んで食べてくれるのが何よりの喜びです。

木工は毎週2回出向いてカレッジ事務局や学友からの注文に応じて色々なものを作っています。当初は仮設住宅から色々な要請がありましたが仮設がなくなってからは目の前のシルバーハイツからの要請も時々あります。大工グループは20人ほどで3期の山中さんの指導もあって初心者もめきめき腕を上げています。私のボランティア活動の姿勢は社会のためとか、人助け、とかの本質から外れているかもしれませんが、自分が楽しみ、健康を維持して、少しでも老化防止に役立てばと思ってやっていることがボランティアとして役立っているとすればこの上の喜びはありません。現在84歳、今も現役のつもりでこれからも

初めての神戸まつり

生環5 江本 親治

神戸で生れ育った私には、以前のみなと祭りから現在の神戸まつりまで、比較的身近な行事ではあったが、見物に行くことはあっても出演することなど、これまでは考えても見なかった。

はからずも今回、兵庫区会の三島会長(1期)から神戸まつりに出てみないかと声が掛り、一度このような経験をしてみたいと思っていた矢先であったので二つ返事でOKをした。

役柄は朝鮮通信使護衛の日本武士で、これらの武士は、朝鮮通信使が釜山を出港して最初に寄港する対馬藩の藩士たちで当時の江戸まで毎回護衛の任に当たっていたようである。

ところが当日衣装を着替える寸前になって朝鮮通信使側の出演者が不足し急遽、井内(3期)、西田(3期)、竹田(6期)さんが通信使役にまわるハプニングがあった。その結果、背が高いからと単純な理由で私が 宗 対馬藩主役を、三島会長と水原(2期)さんが武士役に落ちつき出発した。

ぶしつけな視線の中で1時間ほどの行列は結構疲れるものではあったが、また貴重な初体験でもあった。

5月19日付けの神戸新聞に会長と水原さんが記事とともに大きく写真が掲載された。

体力の続く限りパンジーの会の皆さんと一緒にボランティア活動が続けて行きたいと思っています。



垂水区会

原子力発電所を見学

垂水会の研修見学

垂水会ではことしの研修見学先に関西電力(関電)大飯発電所を選定、6月20日会員の3分の1に当たる71名が見学会に参加しました。

原子力発電については世界でも評価が分かれており、旧ソ連のチェリノブイリ発電所の事故以後「原子力発電からの撤退は世界の趨勢」として発電所の廃棄に向かう国がある一方「地球温暖化防止の面からも欠かせぬエネルギー」として原子力発電を再評価し設備の増設に向かう国もあつます。

我が国の原子力発電についてもこれまで紆余曲折がありました。現在では総発電量の3分の1、関電では過半数を原子力に頼っています。

今回は関電の広報ルートを利用し、日本で2番目、関電では最大の福井県大飯原子力発電所を訪れました。同発電所は1~4号機合計で総出力471万KWの規模を誇り、関電総発電量の2.6%(12年度)の実績をあげています。

当日はあいにくの雨模様でしたが、関電提供のバス2台に分乗、雨と霧に包まれた山野の景色は風情のあるものでした。

きの車中では関電社員から映像を交えた「これからのエネルギー」と題した講義を受けました。発電の原理、エネルギーと環境、原子力と水力、火力との組み合わせ、切り札としての原子力とその安全対策、燃料リサイクルなどが主な内容でした。

発電所には見学者用の施設が整っています。

1. 映像による地域と発電所の概要説明
 2. 実物1/3の精密なモデルによる機器の働きとシステムの説明
 3. ガラス窓から見下ろす原子炉、タービン、発電機、集中制御室など施設の見学
 4. 専用バスからの送変電や取排水口など屋外設備の見学
- など間近に見る設備の珍しさとスケ



松林の中で行われたH14年度第1回大会

垂水会H14年度第1回 グラウンドゴルフ大会

本年度の第一回グラウンドゴルフ大会を5月27日にアジュール舞子で開催しました。

昨年は雨に祟られることが多かったのですが、当日は快晴で浜風が心地よく吹く好条件の中、32名の参加者があり、その上6名の女性の参加者があり大会のムードが大変盛り

上がり、和気あいあいの中プレーが行われました。

競技は2ラウンドを行い、優勝は糟谷貞夫さん、2位永田三男さん、3位は岩崎正明さんで、この3人にホールインワンが出ました。

表彰式では当日賞をめぐってジャンケンで決めたりと、楽しく終了することが出来ました。次回は7月22日に行う予定です。

(垂水会 裏地 彦充)

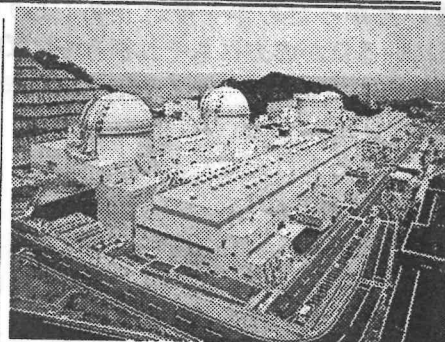
ールの大きさに感動するとともに、難しくてわからないと思われていた発電システムが身近に感じられるようになりました。

発電所への出入りはかなり厳重で以前より厳しくなったようです。

付設されている海水淡水化装置でつくられた水を飲みましたが、くせない味でした。

設備以外に印象に残ったのは、関電広報活動の充実、なかんずく女子社員の活躍でした。研修プランの立案とすり合わせならびに諸手配、パソコンを駆使しながらの映像説明、現場施設の案内など豊富な知識でソフトな対応をしてくれたのは若い女性たちでした。

往路は「舞鶴引揚げ記念館」に立ち寄って往時を偲び、帰路は「とれとれセンター・・・」という海産物市場で買い物を楽しみ、11時間の旅行を終えました。



大飯発電所ホームページより

関西電力では大飯発電所のほか、近くの高浜、美浜両発電所にもPRセンターを設置しており、少人数なら当日の申し込みでも普通は見学可能とのこと。ただ、シースルーで発電設備を見られるのは大飯発電所だけです。

大飯発電所 電話 0770-77-3053

「天の橋立」や「美方五湖」などの観光に出かけられる場合はこれらの施設へ立ち寄られることをお奨めします。(見学研修部 栗本 隆雄)

須磨区会

身近を詩の題材にして

コスモス苑でリハビリ俳句会

須磨区会 細野 恵久

この3月から須磨区妙法寺の老人保健施設コスモス苑で俳句会を始めました。須磨区ボランティアセンターを通じて“わ”に講師派遣の要請があったのをどういふ訳か私に回して下さったのです。

月1回のペースで通っていますが、毎回7、8人の方が参加され、常連の方とは顔馴染みになりました。お相手はもちろん入所または通所されている方々ですが、この会を発案され、熱心に推し進めておられる施設長の青山先生も加わって下さったりします。

俳句会とは言っても作品を競い合うような場ではありません。持ち寄った作品をあらかじめ貼り出しておき、一句づつみんな感想を言い合うのです。

私は作者に作品の動機を説明してもらったり、「こう言い換えると気分がもっとよく伝わりますね」などと助言することにしていきます。作者が何を言いたかったのかを受け止めて、座にいるほかの方にもそれがうまく伝わるようにコーディネートする、そんな役回りというわけです。

参加している方はどなたも何かハンディキャップを持っておられ、生活身辺の変化も乏しく、コミュニケーションも不足がちです。そのような境遇にあっても何らかの詩の題材を

見だし、それを俳句として表現しようと試みておられるのです。作品に少々難があっても問題にすべきではありません。その気持ちこそ尊ぶべきだと思います。

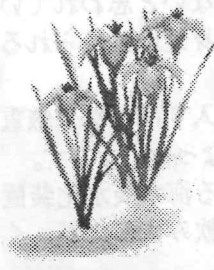
その方々の作品をいくつか紹介してみます。

子雀が首をかしげて我を見る
若葉雨真珠が窓に追いかけて
花菖蒲まわりを泳ぐ蛙かな
明易し看護婦の声待ちわびて

私自身も毎回2つか3つ句を出すのですが、できるだけわかりやすい表現の句を選んでいきます。かつての暮らしの思い出を誘うような句が喜ばれるようです。6月には

玉葱の座らぬ首を束ねたる
という句を出してみたところ「私も畑で玉葱を作っていたのでよくわかる」と言ってくれた人がありました。

このような俳句会のスタイルは何回かやっているうちにだんだん固まってきたものです。参加された方が次の句会も楽しみにして下されば成功だと思っています。参加者の中には作品を出さずに、ただ聞くだけでもと言って来られる方もいますが、そんな方に「次には自分も作ってみようか」と思ってもらえるようになればいいな、と考えています。



情報ぎゃらりー

次号発行は10月25日(金)

の予定です。皆さんの体験記、手記、感想、創作などを9月末までに各区または部会の広報通信員か委員長を通じてお寄せください。

広報部から

今井前広報部長の後を受けて最初の発行です。お気づきのようすこし模様替えをしました。ひとつは紙名ロゴを肉太にするとともに紙名を「情報ぎゃらりー」と短くしました。(従来はグループ“わ”情報ぎゃらりー)。下地はこのグループがさまざまな「わ」(=丸=メンバー)で成り立っていることを示したものです。

2点目は横組みの段数を従来1段から3段に細分したこと。1行当りの字数が少なくなると読み易くなったのではないかと思います。いかがでしょう。

任命を受け、名簿から広報部に属しておられる会員の方々に会報編集にかかわって頂けるか伺った結果、現在次の方が引き受けてくださいました。(敬称略)

今井 洋太郎 (福祉4、北区)
江本 親治 (生環5、兵庫区)
坂口 泰宏 (生環5、中央区)
橋高 正昭 (国際6、北区)
竹田 昭一 (生環6、兵庫区)

当分はこのメンバーで編集をして行くつもりですが、参加ご希望の方は大歓迎です。

広報部は新しい課題としてホームページの立ち上げを要望されております。ホームページの開設、メンテナンスのスタッフをして頂ける方はいらっしゃいませんか。

いずれもご希望の方は事務局(743-8101)までご連絡ください。

今回は制作期間が短かったため、全部会、全区会をカバーできませんでした。次号は原稿が殺到して嬉しい悲鳴をあげることを期待しています。では…。(広報部 朝日照夫)

アンコールコンサート
ホーナーズ 6/18

10月18日(金)~23日(水)

158,000円

募集人員 30名

申込締切 平成14年8月31日(土)

問合せ先 078-709-2484 大坪宅

または078-743-8101 “わ”事務所まで

会員以外の方も受け付けます。